

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1874 号

Transcatheter arterial embolization for angiomyolipoma at renal hilum: A retrospective analysis

(腎門に位置する腎血管筋脂肪腫に対する TAE の有効性の後方視的検討)

井上 達朗 (いのうえ たつろう)

博士 (医学)

論文内容の要旨

腎血管筋脂肪腫は腎の良性間葉系腫瘍で基本的には無症状だが、腫瘍径が 4cm 以上または腫瘤に生じた動脈瘤の径が 5mm 以上になると破裂・出血するリスクが高くなることが知られており、積極的な治療が望まれる。

腎門部に位置する血管筋脂肪腫は、外科的手術では腎盂を損傷する恐れがあり安全に手術するためには正常腎実質を含めた腎摘除を余儀なくされることが多く、患者の身体的負担が大きい。動脈塞栓術においては血管解剖の複雑性により、治療が困難になることが予想される。しかし動脈塞栓術で良好な治療効果が得られれば、患者の負担を減らしつつ腫瘍の縮小と出血リスクの軽減が可能であると考えられる。本研究では、腎門部に位置する腎血管筋脂肪腫に対する予防的動脈塞栓術の有効性と安全性について検討することを目的とする。

2012年8月～2015年1月の期間に当院で腎門部血管筋脂肪腫に対する動脈塞栓術を行った15症例を対象とし、CT・MRIで治療後の腫瘍の縮小率と合併症について後ろ向きに評価した。

治療した腎血管筋脂肪腫は全例で縮小傾向を示し、各腫瘍の最大縮小率は19.6%～96.8% (中央値 64.2%)、経過観察中に再度増大した症例は6例で、縮小を維持した期間は220日～929日 (中央値 452日)であった。副作用は全例で一過性の疼痛・発熱・炎症反応上昇が出現し、炎症反応がピークアウトするまでの期間は3日～8日 (中央値 3日)であった。腎機能障害やその他の副作用が出現した症例はなかった。

予防的動脈塞栓術は腎門部に位置する血管筋脂肪腫に対して有効であり、また安全な治療法であることが結論付けられる。